

視聴者注目の”瞬間”を分析！ NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の第13回「幼なじみの絆」

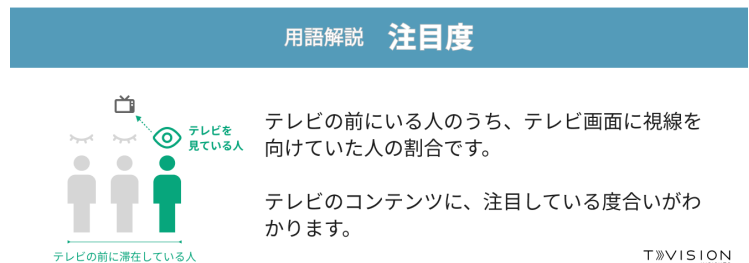
ご家庭に人体認識技術を搭載した機器を設置し、テレビスクリーンの「視られている量」を測るTVISION INSIGHTS株式会社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長 郡谷 康士、以下TVISION）は、2022年1月にスタートした、三谷幸喜さん脚本・小栗旬さん主演の『鎌倉殿の13人』を、毎放送回、視聴者がどのシーンに注目したのかを分析しています。

4月3日に放送された第13回「幼なじみの絆」は、視聴者にどのように見られていたのでしょうか？

テレビの視聴者の様子を、1分毎の「TVISION推定視聴率」と、「テレビの前にいる人のうち、テレビ画面に視線を向けていた人の割合＝注目度※」のグラフで見ってみました。

※注目度とは？

テレビの前にいる人（滞在者）のうち、テレビ画面に視線を向けていた人（注視者）の割合を表します。シーンに注目している度合いがわかります。



『鎌倉殿の13人』毎分の注視データで見る、視聴者が注目したシーンとは？

第13回は、北条義時（小栗旬さん）と八重（新垣結衣さん）、源氏の実力者・木曾義仲（青木崇高さん）と巴御前（秋元才加さん）の2組の幼なじみの関係がキーとなる回でした。

政子（小池栄子さん）が男児を出産し源頼朝（大泉洋さん）の嫡男誕生に沸く鎌倉でしたが、頼朝の浮気が大騒動に発展しました。激怒した北条時政（坂東彌十郎さん）は伊豆へと戻り、これを比企家の好機と捉えた能員（佐藤二朗さん）は源義経（菅田将暉さん）らに近づきます。そんな中、義時は八重のことを一途に思い、鎌倉と江間を往復する日々を送っていました。一方、平家に敗北し再起を図る源行家（杉本哲太さん）は木曾義仲を頼り。。。というストーリーでした。

ツイッターでは「#鎌倉殿の13人」が放送中から5週連続の世界1位になりました。また、八重に「お帰りなさい」と言ってもらう夢がかなった「小四郎くん」が初のランクイン。本格的には初登場となった「木曾義仲」も一時50位以内に入りました。

日付：2022年4月3日（日）放送
 属性：個人全体

NHK『鎌倉殿の13人』第13回放送 毎分注目度推移



20:09 伊豆の北条館へ戻った時政（坂東彌十郎さん）とりく（宮沢りえさん）を三浦義澄（佐藤B作さん）と義村（山本耕史さん）が訪ねるシーン。義村がりくに話しかけると、亀はどこにいるかと聞かれる。義時は答えを濁すが、りくは、色目を使って聞き出そうとするシーン。

20:24-25 信濃へ出発する朝に義経（菅田将暉さん）が現れず、義経を置いて一行は出発する。義経は比企能員（佐藤二朗さん）の娘・里（三浦透子さん）と小屋におり、里が義経を起こすと飛び起き外に出るが、信濃への出発に間に合わなかったことを知り、大声で叫ぶ。場面が変わり信濃の木曾義仲（青木崇高さん）の陣へ義時一行が到着。源行家（杉本哲太さん）が到着の様子を影から見ていて義仲は自分の事を大事にしてくれる、逃がした魚は大きいぞと言い去るシーンまで。

20:29 義仲の陣で焚火を囲って焼き魚を食べながら話している。範頼（迫田 幸也さん）が頼朝が提示した条件を言おうとするが腹を壊し陣へ。範頼に代わりに人質を欲しいという条件を義時が伝える。義時が人質として行家はどうかと提案するが、義仲は自分を頼ってきた行家を渡すわけにはいかないと話すシーン。

TVISION INSIGHTS調べ

最も注目されたのは20:24～25分で、注目度は77.2%でした。義仲への使者に同行することを懇願した義経（菅田将暉さん）。しかし源氏に取り入ろうとする比企能員に娘・里（三浦透子さん）を紹介され、そのまま小屋で過ごし、寝坊したため行くことができませんでした。寝坊したことが分かって義経が叫ぶシーンから、義時一行が信濃に到着したあたりまでが注目されました。義経の人気と声の大きさが注目に繋がったと考えられます。義経と里と一緒に目覚めるシーンはネットでも話題になりました。

注目度2番目のシーンは20:09で、74.6%でした。伊豆の北条館へ戻った時政（坂東彌十郎さん）とりく（宮沢りえさん）を、三浦義澄（佐藤B作さん）と義村（山本耕史さん）が訪ねるシーンでした。義村がりくに話しかけると、亀はどこにいるかと聞かれます。答えを濁すものの、りくは、色目を使って聞き出そうとしました。

きらびやかな世界が好きなりくが、すっかり田舎暮らしに馴染んでいるというギャップと、義村とのツーショットの意外性で、視線を集めたのかもしれない。

注目度が低かったシーンは、冒頭20:29で注目度は65.3%でした。注目度最低点の多くはオープニングシーンですが、1・6・10回目、そして今話はオープニング以外での注目度最低点となりました。義仲の陣で、義時らと焚火を囲み焼き魚を食べながら話すシーンで、義仲の行家に対する男気を感じるシーンでした。しかし全体的に暗く、盛り上がりにかけたのかもしれない。とはいえ、65.3%という注目度最低点は、大河の最低点の中でも、比較的高い数値でした。

※2021年の年間の、プライム帯（19-23時）におけるドラマジャンルの平均注目度は63%

<過去放送回の「鎌倉殿の13人」各回注目シーン分析はこちらをご覧ください>

<https://telescope.tvisioninsights.co.jp/summary-kamakura13/>

TVISIONでは、視聴者のテレビへ視線がどれだけ向けられたのか、テレビ番組では毎分、CMでは毎秒でデータを取得しております。今後も注目のテレビ番組やCMの分析を行って参ります。

<本件に関する問い合わせ先>

TVISION INSIGHTS株式会社 広報担当 佐野、峯島
東京都千代田区大手町1丁目6番1号大手町ビル6階

E-mail info@tvisioninsights.com

Tel（担当直通） 050-5468-2785

【TVISION INSIGHTS株式会社について】

TVISION INSIGHTS株式会社は人体認識技術によってテレビ番組・CMの視聴態勢データを取得し、BtoB向け視聴分析サービスを提供しています。

ご家庭のテレビに、TVISIONが独自に開発した人体認識技術を搭載した調査機器を設置し、調査参加者の視聴態勢を毎秒で自動的に取得。「誰がテレビの前において、きちんと見ているか」というTVISION独自のアテンションデータを広告主・広告会社・放送局など国内累計160社以上のクライアントにご活用いただいています。現在、国内では関東エリアの2,000世帯・関西エリア600世帯、地上波/MX/BSの全番組を計測しています。TVISIONでは「新しいデータによってメディアマーケットを圧倒的に進化させる」というミッションのもと、テレビの価値をアテンションデータによって顕在化しています。